

市民文芸

短歌

令和五年度
阿南市春季短歌誌上大会 選

入選

語らずも語りたき事多かろう楠の古木に手のひら当てる 郡 雅和
 かりそめの幸せなるか孫の食む苺の香りただよふ春夜 喜来富士子
 夫逝きて信ずるあの世今朝もまた父母と睦めと灯明かがやく 原田 京子
 戦車乗る父の遺影は凜として温もり知らねど生きる標に 原 美智子
 感謝される喜び知って中学生「むっちゃやうれしい」とはじける笑顔 佐野 幸子
 那賀川に攻め入るごとき朝潮が散歩の老いの鼻腔擦る 小畑 定弘
 新しい自転車つばさあるごとし中学生となる子の漕げば 佐坂 恵子
 待ちに待つこの孫はやも八ヶ月じいじの膝でカブトをかぶる 西井あつ子
 退職の日一日と近づいてぎつしり埋まる教材ノート 安本 生美
 二年前に植えた河津桜の枝の端にあえかな五輪照れくさそうに 小西 千恵

俳句

阿南市俳句連合会 選

採りたての野菜に紫紺の露光る 米田 豊子
 新生姜梅酢につける田舎風 近藤ヤス子
 遠くてもこの田を守り稲を刈る 金本ひろみ
 裏庭に翅黒蜻蛉のもう十日 吉崎 晶子
 施餓鬼棚団子供えて手を合わす 神野千鶴子
 急ぎ来て僧侶給油や盆の月 佐野 峯子
 句捻りは文字の騒めき夏の夜 森 伸
 竹の里圃場整備へ夏の夢 藤崎 恵竹
 風鈴やおしぼり添えてお接待 鳥海 勇二
 鳳仙花小瓶に作る常備薬 大西 裕子

川柳

阿南川柳会 選

野鳥園今日は何の子に会えるかな 佐藤つたえ
 生き甲斐はあなたなのよも舌ペロリ 篠原 良子
 お荷物になつていないか子との距離 鈴木レイ子
 大らかな彼にすっかりほの字です 多田紀久代
 地獄地図持つて行きます閻魔様 西田 修身
 絡む糸時どき地球釣りあげる 橋本 征介
 可愛くて怒れん孫の世界地図 若木アヤ子

一般応募

虫の音を聞いてゆつたり湯に浸かる 島尾美津子
 ほうたるや遠き時間のちかくなり 泰地 重美
 終活の助走断捨離から始め 武田 敏子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

追懷
 月輪白兔甚分明 大地 和子
 夜話誘眠慈母聲 夜話眠りを誘う 慈母の声
 家室幼童今那處 家室の幼童 今那処
 老殘懷舊坐深更 老殘旧を懷いて 深更に坐す

第三十一番竹林寺

大野シゲ子

賽客仰瞻高塔巔 賽客仰ぎ瞻る 高塔の巔
 五臺山上帶風煙 五台山に 風煙を帯ぶ
 凡愚欲戴文珠智 凡愚戴かんと欲す 文珠の智
 合掌誦經尊像前 合掌し經を誦う 尊像の前

感秋絶句

増喜 泰典

秋郊日落暮山横 秋郊日は落ち暮山横たわる
 只看荒涼流景驚 只だ看る荒涼 流景の驚きを
 描出中天桂花發 描き出だす中天 桂花発ぎ
 野蹊歩月晚蛩聲 野蹊月に歩めば晚蛩の声

